



米国ワシントンD.C.

新時代に対応する 世界銀行の“改革”

世界銀行シニアエコノミスト 石原陽一郎

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



世界銀行（世銀）の本部建物の斬新なデザインは、竣工後15年経ったとは思わせない優れたものだ。ただ、内部の機能維持のためには定期的なメンテナンスと改修が不可欠だ。

同じことは組織にもいえる。金融危機など、世界はかつてない変化を経験している。変化は先進国にとどまらず途上国にも及ぶ。世銀では、変化に対応しつつ、より効率的かつ効果的に「貧困削減」を達成するための改革が進行中である。

改革の一つに「途上国へのサービス提供をどう向上させるか」がある。その方策として、本部からの「権限委譲」を含めた組織改革が議論されている。現場への権限委譲には、いろいろな選択肢があるが、単純に各国の事務所に多くの職員を送れば良いということではない。

世銀の強みは、グローバルバンクという知識・経験の集約にある。その強みを維持しながら権限委譲を進めるのは二律背反なこと。単純な職員の異動だけでは、意図するサービス提供の向上にはつながらない。

権限委譲をサポートするITなどのシステム改革に加え、職員自身の意識や行動も変わらなくてはならない。ダイナミックに変化する現在、改革自体のスピードのみならず、そこで働く職員の変化にもスピードが求められる。

（写真も筆者）